

# 1 主題構成表

主題名 「善悪の判断」(小学校第1学年)

資料名 「どんな一ねんせいになるのかな」

<p>■ 内容項目 1ー(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行く。</p>	<p>■ 価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・善悪の判断とは、人としてやってよいこと、社会通念としてしてはならないことを、自分自身でしっかり区別したり、判断したりすることである。</li> <li>・低学年の児童には、人としてやってよいこと、社会通念としてしてはならないことをしっかり区別したり、判断したりする力を身に付けることが大切である。そして、よいと思ったこと、正しいと判断したことを進んで行くことができる力を身に付けることも必要である。</li> <li>・この時期の児童は、小学校に入学して間もない時期であり、学校での集団生活において、規律を守ることの大切さを学んでいる。そんな中で、その時の雰囲気や状況によって、よいこと、悪いことの区別ができず、してはならないことをしてしまうこともある。それぞれの場面で、どうすることがよいことなのかを自分自身で考え区別し、よいと思ったことを進んで行おうとする態度を育てたい。</li> </ul>	<p>■ 資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本資料は、学校に通うことを楽しみにしていた主人公が、毎日張り切って学校に行くと、よくないことをしている子がいるのを見て、自分自身はどうしていくとよいのか、小学校に入学したばかりの一年生が学校生活での善悪の判断について考えることができる内容である。</li> <li>・小学校生活を楽しみに、胸弾ませて入学した主人公が、毎日張り切って学校に通う気持ちに共感させる。</li> <li>・毎日張り切って学校に通うものの、よくないことをしている子がいるのを見て、何がよくないのかに気付く。</li> <li>・困っている友達の気持ちを考えることで、自分自身が学校生活を送るためには、どのように行動するとよいのか、自己の生き方についての考えを深めるようにする。</li> </ul>
<p>■ 内容項目から見た児童の実態(意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行ってよいことと、悪いことの区別はできる。</li> <li>・自分本位に身勝手なことをしたり、きまりを破ったりするなど、行ってよいことと悪いことを自分自身の都合で判断し、よい行動をしようとする意識が低い。</li> </ul> <p>(要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場の雰囲気や、友達に流されてしまう弱い心がある。</li> <li>・ふざけ心や遊び半分の気持ちから、安直に楽しいことを求めることがある。</li> <li>・引っ込み思案であったりものおじをしたりしてしまう。</li> </ul>		
<p>■ ねらい</p> <p>友達を困らせたり、周りに迷惑をかけたりにすることはよくないことだということに気づき、だれもが気持ちよく生活できるよう、進んでよいと思ったことを行おうとする心情を育てる。</p>		
<p>■ 展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校生活を楽しみに、胸弾ませて登校する気持ちは、入学間もない今の自分たちと同じであることから、十分共感させる。</li> <li>・毎日張り切って学校に通うものの、いけないことをしている子を見つけ、何がいけないことなのかを明らかにする。</li> <li>・何がいけないことなのかははっきりしたことによって、自分はどんな一年生になろうと思っているのか、自分と重ね合わせて捉えさせていく。</li> <li>・これまでの自分を振り返りながら、今後の実践への意欲を高める。</li> </ul>	<p>■ 基本発問 (◎中心発問)</p> <p>○毎日張り切って学校に通っているかばおくんは、どんなことを考えながら学校に通っているでしょう。</p> <p>○毎日張り切って学校に通うかばおくんは、いけないことをしている子を見付けました。何がいけないのでしょうか。</p> <p>◎かばおくんは、まわりの様子を見ながら、自分はどんな一年生になろうと思ったでしょう。</p> <p>○学校生活の場で、よいことと悪いことを区別して、自分で考えて行動できたことはありますか。</p>	

## 2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>◇心のノートを用い、善悪の判断に関わる場面を示し、価値への方向付けをする。</p> <p>○この場面は、よいことをしている場面か、悪いことをしている場面か、どちらかな。またそのわけも聞かせてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これはダメな場面です。だって、二人乗りをしては危ないよ。</li> <li>・これもダメな場面です。だって、授業中ふざけていたら、お話が聞こえないよ。みんなが迷惑するよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしたちの道徳」P34・35の絵(2, 3場面を抽出)から、よいことか悪いことか、またどうすればよいかを問うことで、本時は善悪の判断について学習することを意識付ける。</li> </ul>
展開前段	<p>◇資料提示をする。(教師による読み聞かせ)</p> <p>○毎日張り切って学校に通っているかばおくんは、どんなことを考えながら学校に通っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校って楽しいな。</li> <li>・今日もみんなと会えるから楽しみだなあ。</li> <li>・みんなと遊べるから楽しみだなあ。</li> <li>・今日もいっぱい勉強するぞ。</li> </ul> <p>○毎日張り切って学校に通うかばおくんは、いけないことをしている子を見付けました。何がいけないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達をたたいてはいけないよ。</li> <li>・友達の物をとってはいけないよ。</li> <li>・授業中、おしゃべりはいけないよ。</li> <li>・割り込みはダメだよ。</li> <li>・人のノートに落書きはダメだよ。</li> <li>・人の靴をかくしてはいけないよ。</li> <li>・相手が困っているよ。困るようなことはしてはダメだよ。</li> <li>・相手が悲しそうな顔をしているよ。悲しませてはいけないよ。</li> </ul> <p>◎かばおくんは、まわりの様子を見ながら、自分はどんな一年生になろうと思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に迷惑をかけないように行動できる一年生になろうと思っている。</li> <li>・みんなが楽しく生活できるように嫌がることはしない一年生になろうと思っている。</li> <li>・自分勝手なことをしない一年生になろうと思っている。</li> <li>・よいことを進んでやる一年生になろうと思っている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【深めの発問】</b> かばおくんの、どこがすごいかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人のやっていることをまねせず、ちゃんと自分で考えているから。</li> <li>・よいと思うことをやろうときちんと決めてできるような一年生になろうとしているから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペープサートや、紙芝居など、児童が考えやすいような工夫があるとよい。</li> <li>・かばおくんが、学校生活を楽しみに、胸弾ませて登校する気持ちは、小学校入学間もない子どもたちの気持ちと同じであることをおさえ、十分共感させる。</li> <li>・「にこにこ笑顔のかばおくん」(資料の挿絵)をペープサート等で用意し、主人公になりきって話せる環境を工夫する。</li> <li>・資料の挿絵を絵カードにし、1枚1枚何がいけないのか児童に問いかけることで、よいことと悪いことを区別し、何がいけないのかを明らかにする。</li> <li>・いけないことをしている子を見つけた時のかばおくんの表情を、「にこにこ笑顔のかばおくん」と比較させて考え、位置付けておく。</li> </ul> <p><b>〈補助発問〉</b></p> <p>○みんなはちゃんといけないことがわかるんだね。でも、よいことなのか悪いことなのか、先生やおうちの人に聞かなくてもいいのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの大人に聞かなくても分かる、自分自身で考えて区別することができるということを自覚させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この時のかばおくんの思いを、役割演技をしながら語らせる。顔の表情や、声のトーンにもこだわり、自分と重ね合わせて語るようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>●言語活動の充実</b> かばおくと聞き手になって話すことを通して、よいと思ったことを行動しようとするについて考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいことをきちんと判断することで、学校生活も楽しくなることを確認する。</li> </ul>
展開後段	<p>○学校生活の場で、よいことと悪いことを区別して、自分で考えて行動できたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下を走るとみんなが危ないから、気を付けています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの自分を振り返りながら、自分自身で善悪の判断を行うことができたことを語ることで、今後の実践への意欲をより高める。</li> </ul>
終末	<p>◇教師の説話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうすることがよいことなのかを自分で考え、判断することで、自分自身や周りの仲間も楽しく生活できることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身の経験に基づく事例を基に、児童の実態や学級経営の指導の方向に即して意図的に話す。</li> </ul>

### 3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

〈場の内容・ねらい〉

〈児童の意識〉

〈指導・援助〉

生活（4月）  
「ときどくわくわく1年生」  
・学校の施設や先生、友達などに関わることを通して、学校に親しみ、学校生活を送るための習慣や技能を身に付け、登下校のルールなどがあることが分かるとともに、これからの学校生活や教科学習などへの意欲をもち楽しく安心して遊びや生活ができる。

【日常の活動】  
○朝の会  
・みんなが学校生活を楽しく過ごすためには、いろいろなきまりやルールがあることを知る。  
・学校生活を楽しく過ごすために、よいことをきちんと判断し、行動することができるように目的やめあてをもつ。

・学校は友達がたくさんいるから楽しいな。楽しい活動もいっぱいあって嬉しいな。みんなですぐに生活するためには、いろいろなきまりやルールがあるんだな。きちんと守って生活していこう。

・学校は集団で生活する場所である。そのためには、一人一人がよいと思うこととよくないと思うことを判断して生活する必要がある。そうすることで、みんなが、楽しい学校生活を送ることができることに気付かせていく。

道徳の時間（4月）  
「どんな一年生になるのかな」  
どうすることがよいことなのか、自分自身で考え判断することで、学校生活を楽しく過ごすことができることに気付き、正しいと判断したことを進んで行おうとする態度を育てる。

・自分勝手なことをすると、相手が困ったり、迷惑したりする。よいことをきちんと判断して行動することで学校生活が楽しくなるので、自分も頑張っていこう。

・学校生活の場において、自分さえよければいいという自分本位の考え方ではなく、よいことといけないことの区別をし、その時の状況によって自分自身で考え正しく判断したことを進んで行おうとする態度を育てる。

体育（4月）  
「ゆうぐ」  
・固定施設である、登り棒や肋木、鉄棒等を使い、登り下りやぶら下がり、回転などをして遊ぶことができる。

○帰りの会  
・よいことをきちんと判断し、行動できたことを振り返る。また、仲間の姿も知り、明日からの意欲にする。

・遊具で遊ぶ時に、順番を守ったり、友達がやっているのを応援したりしていたら、けんかもなく、みんなが楽しくできた。やっぱりきまりや約束を守ることは大事だなあ。

・順番を守ったり、友達を応援したりしている姿を価値付け、そうすることで、皆が遊具で、楽しく、たくさん遊ぶことに気付かせる。

生活（4月～5月）  
「がっこうだいすき」  
・友達といっしょに校舎内や校庭を歩いたり、通学路の様子を調べたりして、学校の施設や、学校生活を支えている人々や自分たちの安全を守っている人々のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるとともに、安全な登下校ができる。

○休み時間・掃除活動  
・仲間が学校生活を楽しく過ごすことができるように、休み時間には、仲間同士誘い合っって仲よく遊ぶことができる。また、掃除時間には、どうすることがよいことなのかを自身でしっかり考え、判断し、行動できる。

・掃除時間は、ぞうきんできれいに床を磨いたら、ぴかぴかになった。一生懸命に掃除をしてよかったな。

・自分自身で判断し、進んで行うことができた児童の姿を広め、価値付けていく。

・学校はみんなが生活する場所。大きな声で騒いだり、廊下を走ったりせず、きまりを守って学校探検することができたよ。  
・私たちの安全を守ってくれる人が地域にもいるんだ。迷惑をかけないように、まずは自分がよいと思うことを行って、交通ルールを守らないといけないな。

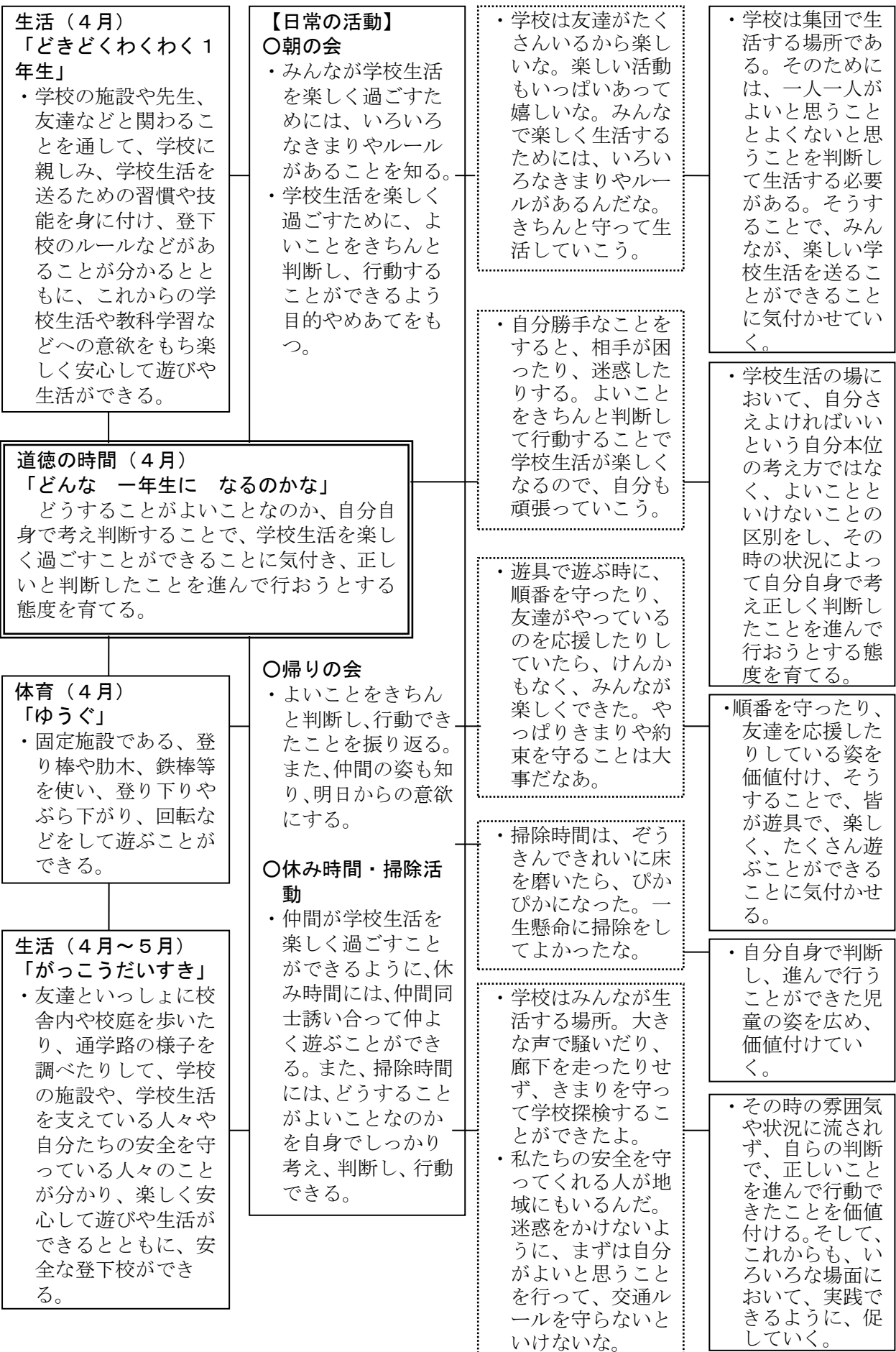
・その時の雰囲気や状況に流されず、自らの判断で、正しいことを進んで行動できたことを価値付ける。そして、これからも、いろいろな場面において、実践できるように、促していく。

### 3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

〈場の内容・ねらい〉

〈児童の意識〉

〈指導・援助〉



どんな  
— いちねんせい<sup>いち</sup>になるのかな



いたいよ。



かえしてよ、  
ぼくのだよ。



かばおくんは、一<sup>いち</sup>ねんせいです。  
がっこうに かよう ことを、  
ずうっと たのしみに して いました。  
まいにち、はりきって がっこうに  
いきます。

あれあれ、いけないことを  
していることがいるね。



うるさくて、  
きこえないよ。



わりこまないで。



だれが、  
かいたの。



ぼくの  
くつが、  
ないよ。

かばおくんは どんな  
一ねんせいに  
なるのかな。

内容項目 一―(三)

出典 小学校道徳読み物資料集

(平成二十三年三月 文部科学省)